



福岡医発第 604 号（地）

平成 27 年 5 月 23 日

各 医 師 会 長 殿

福 岡 県 医 師 会
会長 松 田 峻一良
(公 印 省 略)

重症熱性血小板減少症候群（S F T S）の発生について

時下 ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

今般、重症熱性血小板減少症候群（S F T S）の患者が県内で初めて確認された旨、別添のとおり福岡県保健医療介護部保健衛生課より通知が参りましたのでご連絡申し上げます。

患者を S F T S と判断した場合には、感染症の予防及び感染症患者に対する医療に関する法律（平成 10 年法律第 114 号）第 12 条第 1 項の規定に基づき、最寄りの保健所長を通じて県知事に届け出を行うようお願い致します。

つきましては、貴会におかれましても本件に関しご了解いただくとともに、貴会会員への周知方よろしくお願い申し上げます。

小郡三井医師会より

感染症対策担当理事 田中泰之
会長 廣瀬真恵

公印省略

27保衛第528号
平成27年5月19日

公益社団法人福岡県医師会長
公益社団法人福岡県病院協会長
一般社団法人福岡県私設病院協会長
公益社団法人全国自治体病院協議会福岡県支部長
一般社団法人福岡県精神科病院協会長

殿

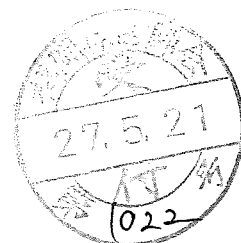
福岡県保健医療介護部長
(保健衛生課感染症係)

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の発生について

本県の保健医療行政の推進につきましては、平素から格別の御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

このことについて、県内で患者の発生が初めて確認されましたのでお知らせします。

つきましては、貴会会員に対し、患者をSFTSと診断した場合には、感染症の予防及び感染症患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号）第12条第1項の規定に基づき、最寄りの保健所長を通じて県知事に届け出を行うよう周知をお願いします。



重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の患者発生について

今般、福岡県内ではじめて、重症熱性血小板減少症候群（Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome：以下「SFTS」という。）の患者が確認されました。

1 患者の概要

- （１）年齢・性別等：30歳代、女性（福岡県糟屋郡在住）
- （２）症状等：入院中（発熱、下痢、頸部リンパ節腫脹 等） ※左頸部にダニの咬傷跡有
- （３）経過：5月12日朝より体調不良
5月14日福岡市内の医療機関受診・入院
- （４）その他：最近の海外渡航歴無し

2 患者確認までの経緯

- ・5月14日（木）福岡市内の医療機関から検査依頼有り
- ・5月15日（金）福岡市保健環境研究所の検査で陽性
最終的な確認検査のため、検体を国立感染症研究所に送付
- ・5月19日（火）国立感染症研究所の検査結果で陽性確認

※ 患者及び家族等の個人情報については、プライバシー保護の観点から、提供資料の範囲内での報道をお願いします。

3 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について

- （１）SFTSとは
 - ・SFTSウイルスを保有するマダニに咬まれることで感染します。
 - そのため、患者はマダニの活動期である春から秋にかけて発生しています。
 - ・現在、有効なワクチンや抗ウイルス薬等の特異的な治療薬はなく、対症療法が主体になります。
- （２）SFTSの潜伏期間、症状等
 - ・潜伏期間：6日～2週間です。
 - ・症状：発熱、消化器症状（嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、下血）を主徴とし、時に、頭痛、筋肉痛、神経症状、リンパ節腫脹、出血症状などを伴います。血液所見では、血小板減少（10万/mm³未満）、白血球減少（4000/mm³未満）、血清酵素（AST、ALT、LDH）の上昇が認められます。致死率は10～30%程度です。

県民の皆様へ

- ・マダニに咬まれないようにすることが重要です。
- ・マダニは、主に森林や草地等の屋外に生息し、全国的に分布しています。家庭内に生息するダニとは種類が異なります。
- ・草むらや藪など、マダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖・長ズボン、足を完全に覆う靴、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等、肌の露出を少なくすることが大切です。
- ・マダニ類の多くは人や動物に取り付くと、皮膚にしっかりと口器を突き刺し、長時間（数日から長いもので10日間）吸血します。
- ・吸血中のマダニを見つけた場合は、医療機関（皮膚科）で処置しましょう。
- ・マダニに咬まれた後に、発熱等の症状があった場合は、医療機関を受診しましょう。

<発表事由>

- 1 入院事例
- 2 死亡事例
- 3 集団発生事例
- 4 その他(特に注意喚起等が必要)

平成27年 5月19日 17:00 現在

保健福祉局 健康医療部 保健予防課

担当: 衣笠, 植山, 古賀 (順)

TEL 711-4270 (内2061)

重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) (四類感染症) の発生について

今般、福岡県内ではじめて、重症熱性血小板減少症候群 (Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome : 以下「SFTS」という。) の患者が確認されました。

1 患者の概要

- (1) 年齢・性別等 ・ 30歳代: 女性 (福岡県糟屋郡在住)
- (2) 症状等 ・ 入院中 (発熱, 下痢, 頸部リンパ節腫脹 等) ※左頸部にダニの咬傷跡有
- (3) 経過 ・ 5月12日朝より体調不良
- ・ 5月14日福岡市内の医療機関受診・入院
- (4) その他 ・ 最近の海外渡航歴無し

※患者及び家族等の個人情報については、プライバシー保護の観点から、提供資料の範囲内での報道をお願いします。

2 患者確認までの経緯

- ・ 5月14日 (木) 福岡市内の医療機関から検査依頼有り
- ・ 5月15日 (金) 福岡市保健環境研究所の検査で陽性
- 最終的な確認検査のため、検体を国立感染症研究所に送付
- ・ 5月19日 (火) 国立感染症研究所の検査結果で陽性確認

3 福岡市の対応

- ・ 患者の居住地を管轄する福岡県へ情報提供を行った。
- ・ 市民への情報提供及び注意喚起。

4 重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) とは

2011年に初めて特定された、新しいウイルス (SFTSウイルス) に感染することによって引き起こされる病気です。平成25年3月4日から、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 (平成10年法律114号) の四類感染症に位置づけられ、当該感染症の患者を診断した医師からの届出が義務づけられました。

SFTSは、SFTSウイルスを保有するマダニに咬まれることで感染するといわれており、感染予防策としては、マダニに咬まれないことが重要です。

全てのマダニがSFTSウイルスを保有しているわけではありませんが、マダニは春から秋にかけて活動が活発になりますので、森林や草むらなどマダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖・長ズボンを着用するなどマダニに咬まれないよう、肌の露出を避けるよう対策を講じてください。

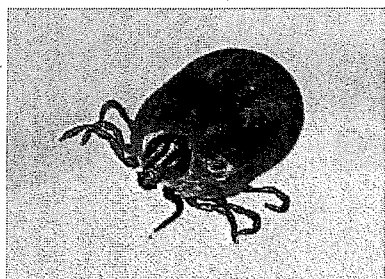
もし、マダニに咬まれた場合は、マダニを無理に取り除こうとせず、速やかに医療機関（皮膚科）を受診し、処置（マダニの除去、洗浄など）をしてもらってください。また、マダニに咬まれた後、2週間程度は体調の変化に注意しながら、発熱等の症状が認められた場合は医療機関を受診し「マダニに咬まれた」ことを伝えてください。

■全国の発生状況（現時点）

発生県名	発生報告数（人）
和歌山県	2
兵庫県	2
島根県	1
岡山県	4
広島県	10
山口県	8
徳島県	9
愛媛県	20
高知県	14
福岡県	1（本件）
佐賀県	3
長崎県	7
熊本県	5
大分県	3
宮崎県	20
鹿児島県	10
合計	119

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)とは

SFTSは2011年に中国の研究者らによって発表されたブニヤウイルス科フレボウイルス属に分類される新しいウイルスによるダニ媒介性感染症である。2013年1月に国内で海外渡航歴のない方がSFTSに罹患していたことが初めて報告され、それ以降他にもSFTS患者が確認されるようになった。SFTSウイルス(SFTSV)に感染すると6日～2週間の潜伏期を経て、発熱、消化器症状(食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛)が多くの症例で認められ、その他頭痛、筋肉痛、意識障害や失語などの神経症状、リンパ節腫脹、皮下出血や下血などの出血症状などを起こす。検査所見上は白血球減少、血小板減少、AST・ALT・LDHの血清逸脱酵素の上昇が多くの症例で認められ、血清フェリチンの上昇や骨髄での血球貪食像も認められることがある。致死率は6.3～30%と報告されている。感染経路はマダニ(フタトゲチマダニなど)を介したものが中心だが、血液等の患者体液との接触により人から人への感染も報告されている。治療は対症的な方法しかなく、有効な薬剤やワクチンはない。



フタトゲチマダニ *Haemaphysalis longicornis*

感染症発生動向調査で届出られた SFTS 症例の概要 (2015 年 4 月 8 日現在)

感染症発生動向調査では110人のSFTS患者が報告されており、男女比は24:31で、年齢中央値は73歳であった。5-8月の発症例が多く、西日本の15県から報告されている。なお、感染症発生動向調査で届出が求められる以前に診断された4人の患者は報告されていない。

表1 基本情報(2015年4月8日現在)

		生存例	死亡例	合計
報告数		78	32	110
性別	男	35	13	48
	女	43	19	62
年齢	中央値	70.5 歳	80.5 歳	73 歳
	～20 代	1	0	1
	30 代	1	0	1
	40 代	2	0	2
	50 代	5	2	7
	60 代	27	5	32
	70 代	21	8	29
	80 代	18	14	32
	90 代～	3	3	6

注) 死亡は感染症発生動向調査の届出時点の情報であり、経過中の死亡は報告されていない可能性がある

図1 2013年1月1日以降に発症したSFTS症例の発症時期(N=102, 2015年4月8日現在)

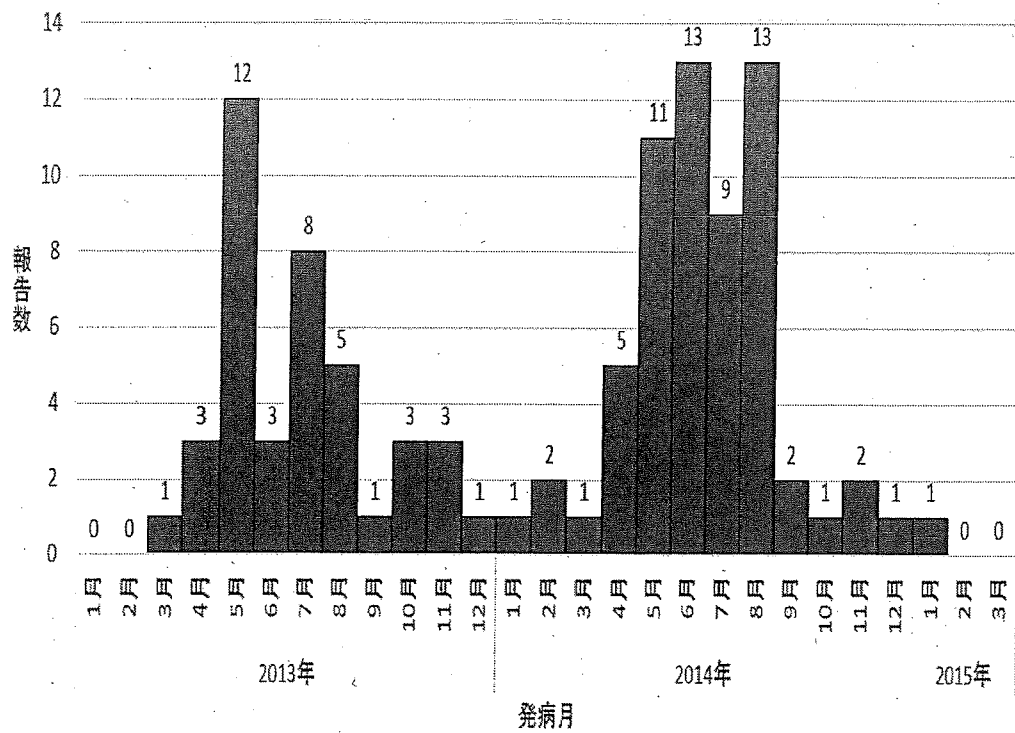


図2 SFTS 症例の発生(感染)地域(N=110, 2015 年 4 月 8 日現在)

